



平成28年12月期 第2四半期
決算説明資料
(2016年度)

2016年8月10日

昭和シェル石油株式会社

注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

業績概要（2016年1-6月）

	2015年	2016年
	1-6月	1-6月
	億円	
石油事業営業利益 (CCS*ベース)	313	224
エネルギーソリューション事業営業利益	-17	-34
CCS*ベース営業利益	295	190
経常利益	137	132
CCS*ベース経常利益	294	166
親会社株主に帰属する四半期純利益	89	52
CCS*ベース親会社株主に帰属する四半期純利益**	190	75
1株当たり親会社株主に帰属する四半期純利益(円)	23.8	13.9

営業活動によるキャッシュ・フロー	-196	201
1株当たり配当金(円)	19.0	19.0

(注)「その他」および「調整額」は石油事業に含む

* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いた利益)

**親会社株主に帰属する四半期純利益(CCSベース):

在庫評価の影響を除いた四半期純利益(法人税等への影響は簡易的に算出)

決算ハイライト

- CCSベース経常利益は166億円、前年同期比で減益。在庫評価影響はマイナスが残った
- 石油事業CCSベース営業利益は前年同期比で減益となるも、一定の水準は確保。エネルギーソリューション事業営業利益は前年同期比で赤字が拡大
- 営業キャッシュフローは201億円と堅調に増加

石油事業ハイライト

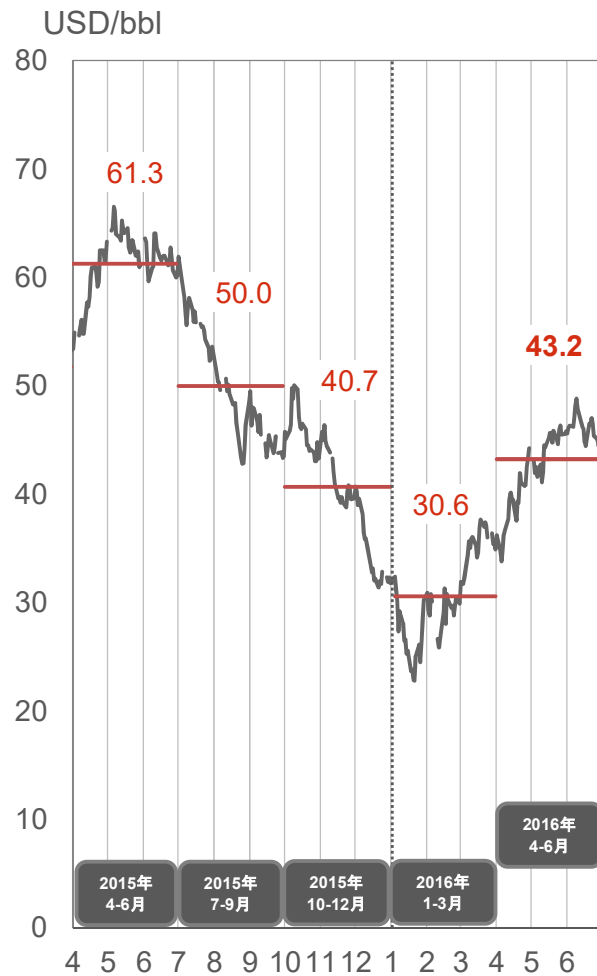
- 国内燃料油マージンは、原油価格や為替の急激な変動や海外マージン低下といった厳しい環境下の中でも、一定の水準を維持
- 累計期間のガソリン・軽油などの主要4油種合計の国内販売数量は、前年を上回るとともに、対前年伸び率も業界平均を上回った
- グループ製油所は業界平均を継続して上回った

エネルギーソリューション事業ハイライト

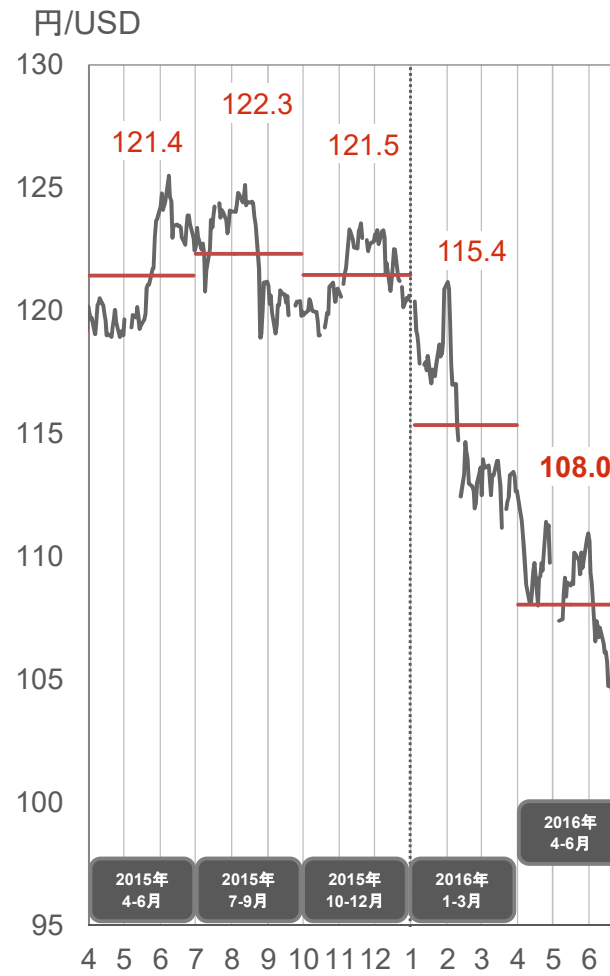
- (太陽電池事業) パネル出荷数量は計画に沿って推移するも、市況下落、海外販売拡大、円高影響により販売単価は前年比で下落。営業損失は前年同期比で拡大。東北工場は6月に商業生産へ移行
- (電力事業) 前年同期比で増益。新設した2発電所を含め、自社発電所の効率的かつ安定的な稼働および販売ポートフォリオ最適化活動の順調な進捗が貢献

事業環境－原油、為替

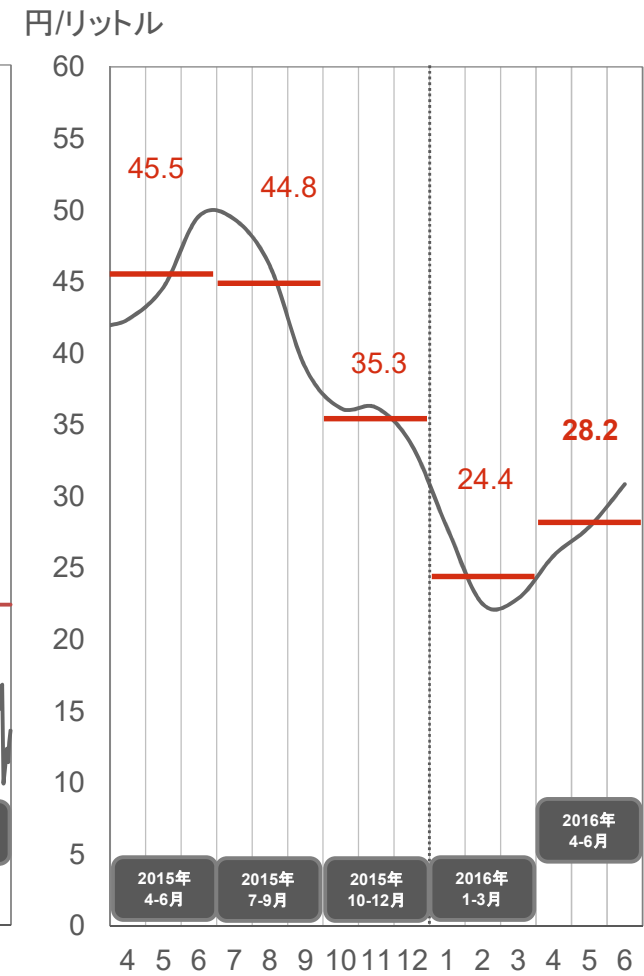
ドバイ原油価格



為替レート(ドル)



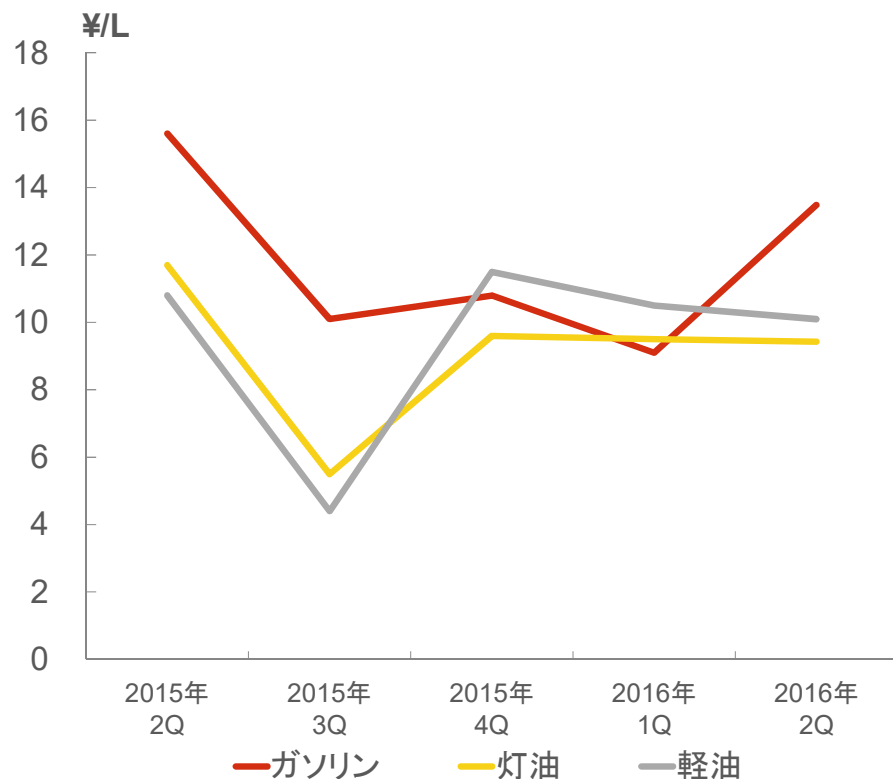
原油通関CIF価格



事業環境(4-6月)－石油事業

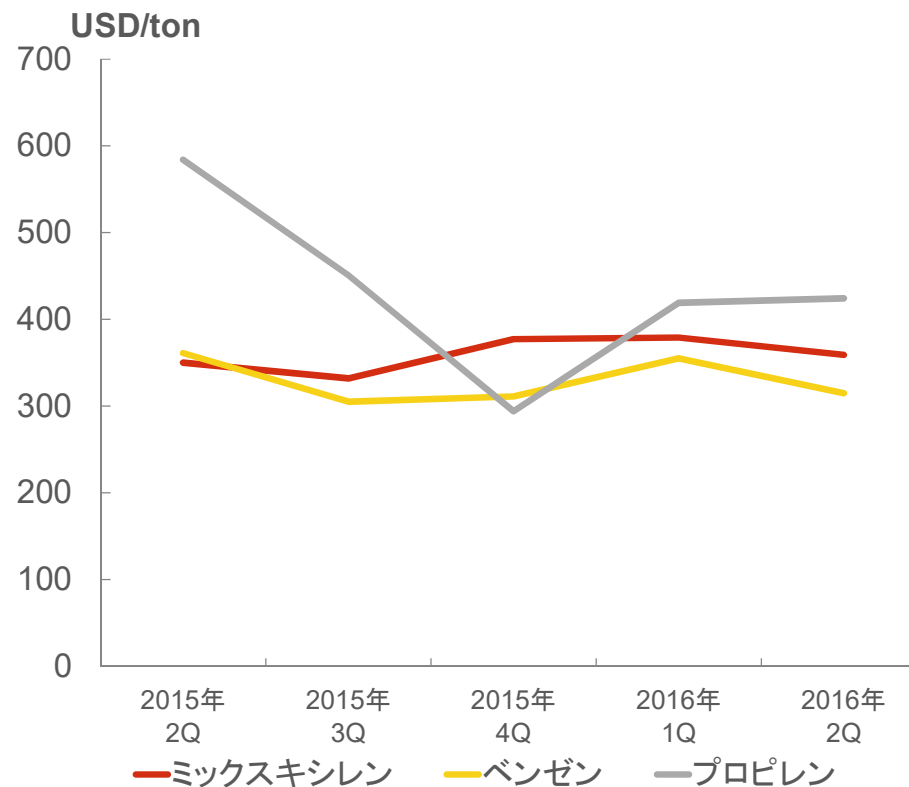


国内石油製品マージン



※ 国内スポット価格－原油通関CIF

アジア極東地域 化成品マージン



※ スポット製品価格－ドバイ原油スポット価格

- 国内石油製品マージンは前四半期比で若干の改善。為替は円高傾向で推移したものの、原油価格が上昇基調にあったことで、円建ての日本入着原油価格は上昇、前四半期に見られたマイナスのタイムラグ影響*は解消した。しかしながら、供給過剰による製品輸出マージン低迷が、国内マージンの改善スピードに影響を及ぼした
- ミックスキシレンおよびベンゼン等の化成品マージンについては、安定した推移。アジアの一部石化プラントのトラブルや定期メンテナンス等によるプラント稼働停止等もマージン安定化に貢献

決算ハイライト（1-6月）

■ 原油価格および為替レート

		2015年度 1-6月実績	2016年度 1-6月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	56.6	37.1
為替レート	(円/USD)	120.3	111.7

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2015年度 1-6月実績	2016年度 1-6月実績	増減	前年同期比
売上高	1,148,480	851,582	- 296,897	-25.9%
営業利益	13,898	15,674	+ 1,776	+12.8%
営業外損益	-153	-2,441	- 2,287	-
経常利益	13,745	13,233	- 511	-3.7%
※在庫影響	-15,678	-3,402	+ 12,276	-
※CCSベース経常利益	29,423	16,636	- 12,787	-43.5%
特別損益	4,455	2,077	- 2,378	-53.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,996	5,233	- 3,762	-41.8%
※CCSベース親会社株主に帰属する四半期純利益	19,087	7,511	- 11,576	-60.6%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報（1-6月）

■ 売上高

(百万円)	2015年実績 1-6月	2016年実績 1-6月	増減	前年同期比
石油事業	1,089,194	784,476	- 304,718	-28.0%
エネルギーソリューション事業	55,298	63,099	+ 7,801	+14.1%
その他	3,986	4,005	+ 19	+0.5%
売上高 計	1,148,480	851,582	-296,897	-25.9%

■ 営業利益

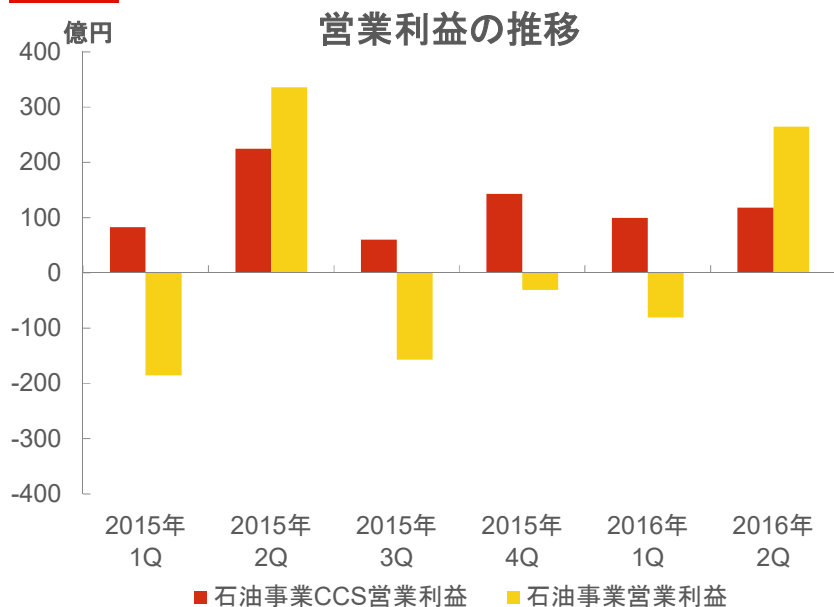
(百万円)	2015年実績 1-6月	2016年実績 1-6月	増減	前年同期比
石油事業	14,995	18,349	+ 3,354	+22.4%
※在庫影響	-15,678	-3,402	+ 12,276	-
※石油事業CCS営業利益	30,673	21,751	- 8,922	-29.1%
エネルギーソリューション事業	-1,734	-3,415	- 1,680	-
その他	629	739	+ 109	+17.4%
調整額	8	2	- 6	-76.2%
営業利益 計	13,898	15,674	+ 1,776	+12.8%
※CCS営業利益 計	29,577	19,077	- 10,499	-35.5%

- ・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給・小売り販売等
- ・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

セグメント別業績概要(4-6月)



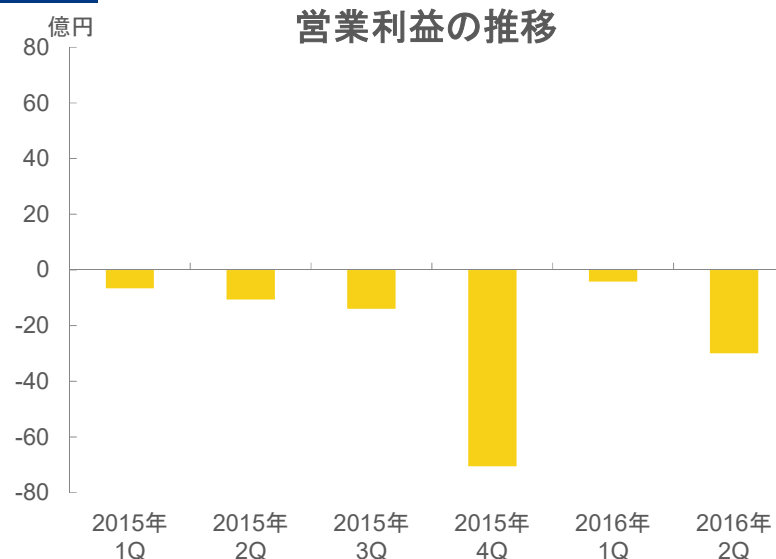
石油事業



- 第2四半期のCCSベース営業利益は、記録的水準であった前年第2四半期との比較では減益となるも、前四半期比では増益。原油価格が上昇基調に転じ、マイナスのタイムラグ影響が解消したことが主な要因
- 製品・サービス差別化戦略、時機を得た製品輸出の実施、構造的コスト競争力改善活動の継続実施等も貢献
- 原油価格が上昇基調に転じたことにより、第2四半期の在庫影響はプラスとなった



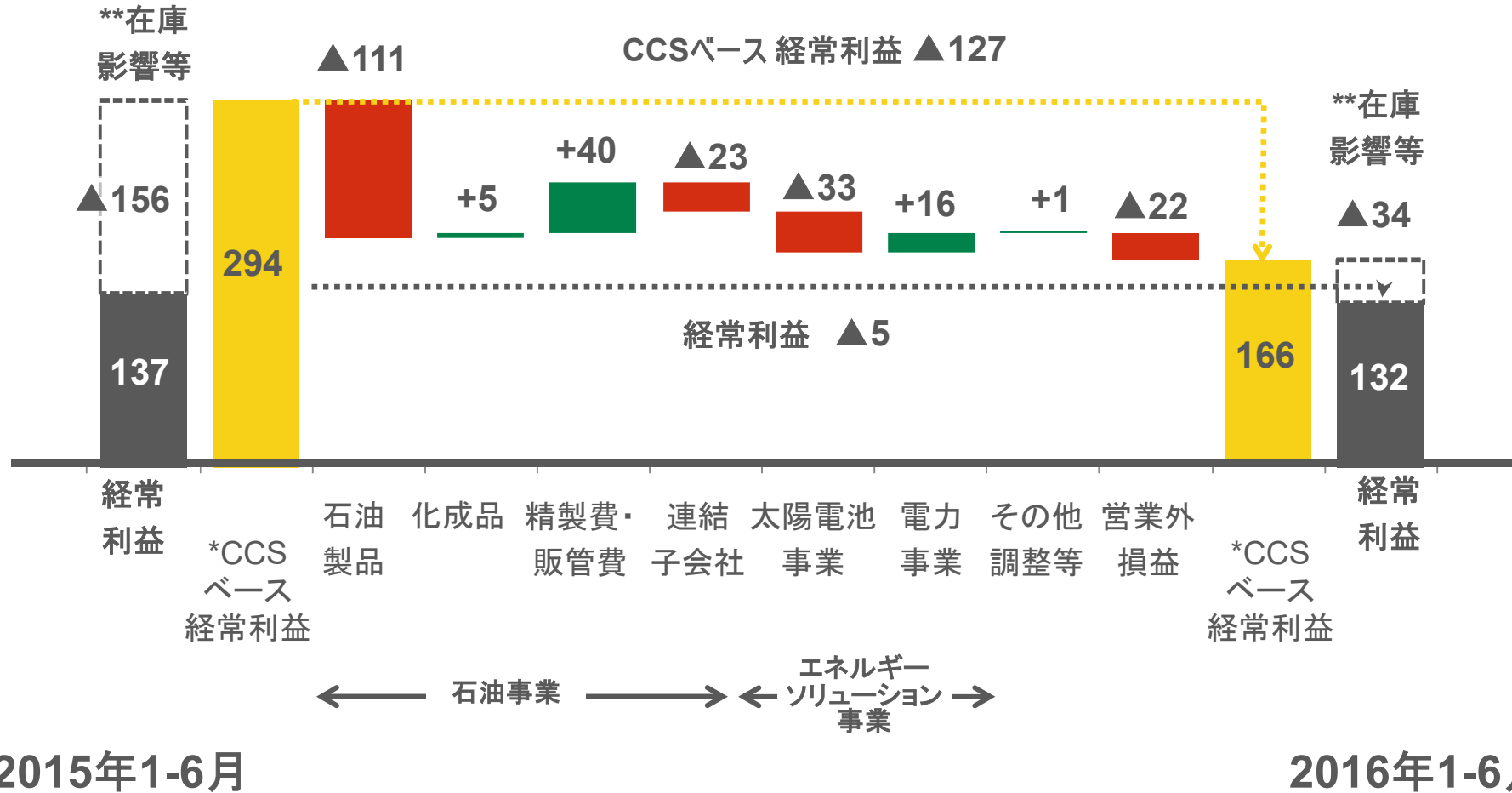
エネルギーソリューション事業



- 第2四半期の営業損失は、前年同期比・前四半期比ともに拡大
- 太陽電池事業収益は、パネル出荷は順調に推移したものの、販売単価の下落(円高影響含む)等により悪化。第2四半期に予定していた発電所販売(BOT*)の期ズレも影響
- 電力事業は、前年同期比・前四半期比ともに増益。新設の京浜バイオマス発電所および扇島パワー3号機が加わり、4月から完全自由化された電力小売り分野の強化も含め、新規電源に対応した販売ポートフォリオ最適化活動が順調に進捗した

前年同期比 要因分析(経常利益)

単位: 億円

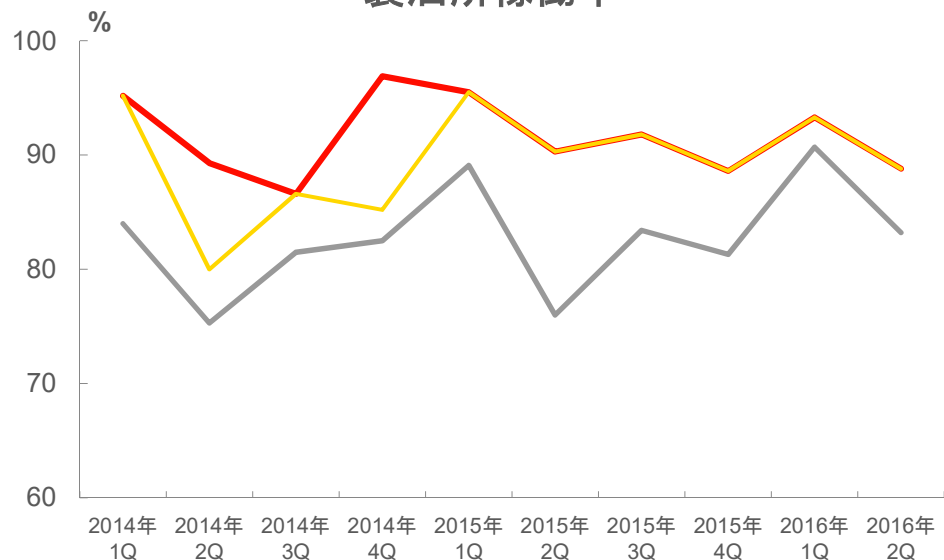


* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)
 ** 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む。

事業概況(4-6月)ー石油事業

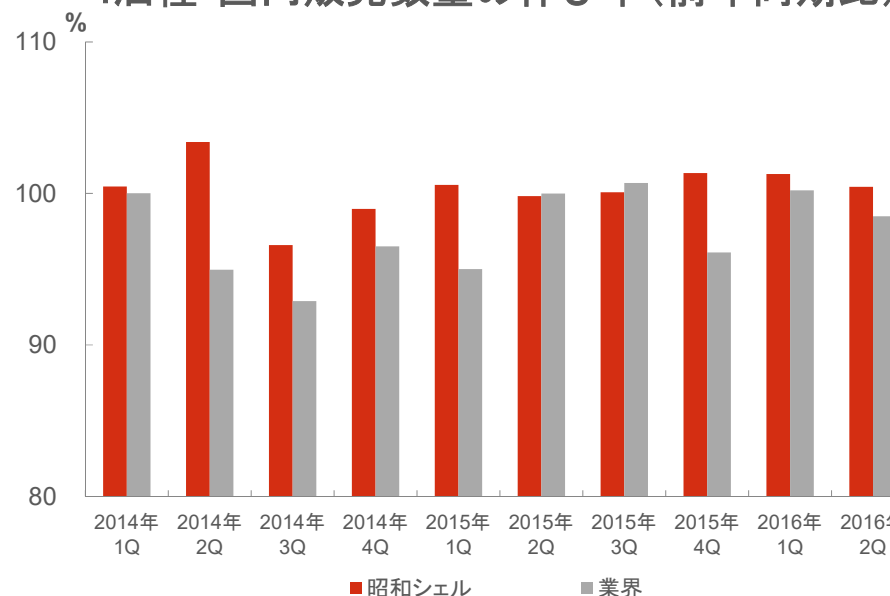


製油所稼働率



— 昭和シェルグループ製油所稼働率(定期修理影響を含まない)
— 昭和シェルグループ製油所稼働率(定期修理影響を含む)
— 国内製油所稼働率(定期修理影響を含む) 出典: 石油連盟

4油種*国内販売数量の伸び率(前年同期比)



■ 昭和シェル ■ 業界
 *4油種: ガソリン、灯油、軽油、A重油
 出典: 経済産業省「資源・エネルギー統計」
 ※2016年2Qの業界は速報値

- 第2四半期のグループ製油所稼働率は、前四半期に引き続き業界平均を上回る高い水準を維持
- 比較的付加価値の高い燃料油であるガソリン、灯油、軽油など4油種合計の国内販売数量は、第2四半期においても前年を上回り、対前年伸び率も業界平均を上回った
- ガソリンおよび中間留分(ジェット燃料、軽油等)の輸出も国内外の市況動向に応じて、継続して積極的に実施。比較的収益性の高いミックスキシレンなどの化成品も生産の最大化を継続した
- 四日市製油所でミックスキシレンなどの化成品(芳香族)を増産する不均化装置が稼働を開始

原油処理実績および販売数量実績（1-6月）



■ 原油処理実績およびグループ製油所稼働率

		2015年度 1-6月実績	2016年度 1-6月実績
原油処理実績	(千KL)	11,899	11,725
稼働率		92.9%	91.1%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

■ 製品別販売数量

(千KL)	2015年度 1-6月実績	2016年度 1-6月実績	前年同期比
揮発油	4,182	4,196	+ 0.3%
ジェット燃料	865	948	+ 9.6%
灯油	1,503	1,512	+ 0.6%
軽油	2,652	2,668	+ 0.6%
A重油	1,003	1,047	+ 4.4%
C重油	566	616	+ 8.8%
化成品* (千MT)	535	519	- 2.9%
その他	1,373	1,134	- 17.4%
国内販売合計	12,677	12,641	- 0.3%
輸出	1,538	1,285	- 16.4%
総合計	14,215	13,927	- 2.0%

(補足)

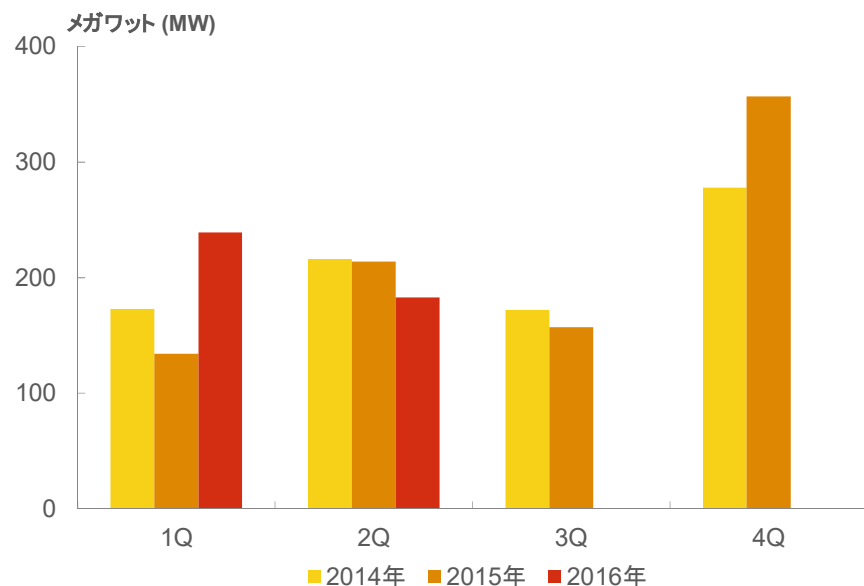
「その他」において前年同期比で大幅に減少している主要因は、2015年4月からLPガス元売事業統合会社「ジクシス(株)」が発足したことに伴い、LPガス供給の7~8割を占める輸入品がジクシス自身の調達に切り替わったため。1-6月期におけるインパクトは国内販売合計において約▲3%に当たる。尚、2016年4-6月期以降は、このインパクトは生じません。

*化成品： ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

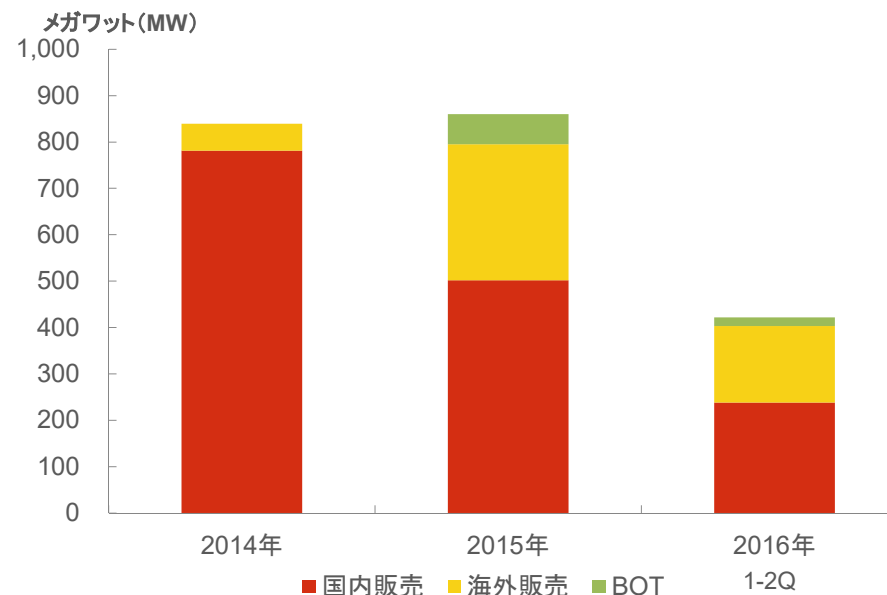
事業概況(4-6月)ー太陽電池事業



四半期別 モジュール出荷数量



地域・用途別モジュール出荷数量



- 第2四半期のパネル出荷は、前年同期比で微減となるも、計画に沿った推移。国内・海外出荷比率も前四半期並みとなり、計画レベルでコントロールされた水準
- 中期戦略に基づいた販売戦略を継続して実行。国内市場では将来的にも安定した需要が見込まれる住宅向けにフォーカスし、海外では新規販売先を開拓しつつ、BOT等の付加価値ビジネスも推進
- 国内の販売単価は緩やかな下落基調。海外市況としては安定的に推移するも、円高の影響を受けて、海外向け販売単価は想定を上回って下落
- 主力工場である国富工場は、第2四半期も定期メンテナンスを除いて高稼働を維持。生産コスト低減にも継続して取り組んだ。最新のCIS量産技術を導入した東北工場は、6月に商業生産へ移行

2016年1-6月 事業戦略の進捗



石油事業 「国内No.1の収益体質となる」

中期経営アクションプラン	2016年1-6月に推進した戦略
オーガニック・グロース (既存事業の継続成長)	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内販売規模の維持 ■ 付加価値向上によるマージンの改善 ■ サプライチェーンを通じたコスト削減 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電力事業とのシナジーを追求し、SS顧客基盤を強化する電力小売販売「ドライバーズプラン」を開始 ■ 「Shell V-Power」や「Ponta」、GTLベースオイルを活用した高付加価値潤滑油等の差別化商品・サービス戦略を継続して推進 ■ 2014年末に当初計画である2012年度比260億円の改善は既に達成。更なるコスト構造の最適化に継続して取り組む
ステップ・チェンジ (事業構造改革による成長)	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 他社との協業 ■ 石油化学事業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出光興産との経営統合に向けた準備を推進 ■ コスモ石油との四日市地域での精製事業提携の実行に向けた準備を推進 ■ 四日市製油所でミックスキシレン等を増産する不均化装置が稼働開始

(注) 当社は、基幹事業の効率化と収益力強化を「**オーガニック・グロース**」、また未来の成長に向かって経営資源を投入することを「**ステップ・チェンジ**」と定義しています。

2016年1-6月 事業戦略の進捗



エネルギーソリューション事業

中期経営アクションプラン	2016年1-6月に推進した戦略
太陽電池事業 「グローバルリーダーとなる」	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内市場で勝ち組になる ■ 高付加価値ビジネスモデルの構築 ■ 将来の成長に向けた技術開発 ■ 世界市場への本格進出 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内住宅用需要が伸び悩む中でも代理店等と販売強化活動を展開し、当社の国内販売数量は業界を上回る対前年伸び率 ■ 継続して国内外でプロジェクト開発事業(BOT)を展開。米国案件は2号案件まで売却を完了。国内では日本政策投資銀行、太陽石油と発電プロジェクトを目的とした合弁会社を設立 ■ 東北工場は6月に商業生産へ移行。フル生産体制の確立に向けて取り組みを継続 ■ 北米(アメリカ、メキシコ)を中心に、新規の販売先を獲得
電力事業 「事業規模および発電源メニューを拡大する」	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業規模を1ギガワット規模へ拡大 ■ 発電源を拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発電源規模拡大および小売全面自由化に伴い、サービスステーションやLPG販売網とのシナジーを活用した家庭用低圧小売り事業を開始 ■ 扇島パワー第3号機は計画通り2月に運転開始

主なプロジェクトの進捗状況



石油事業

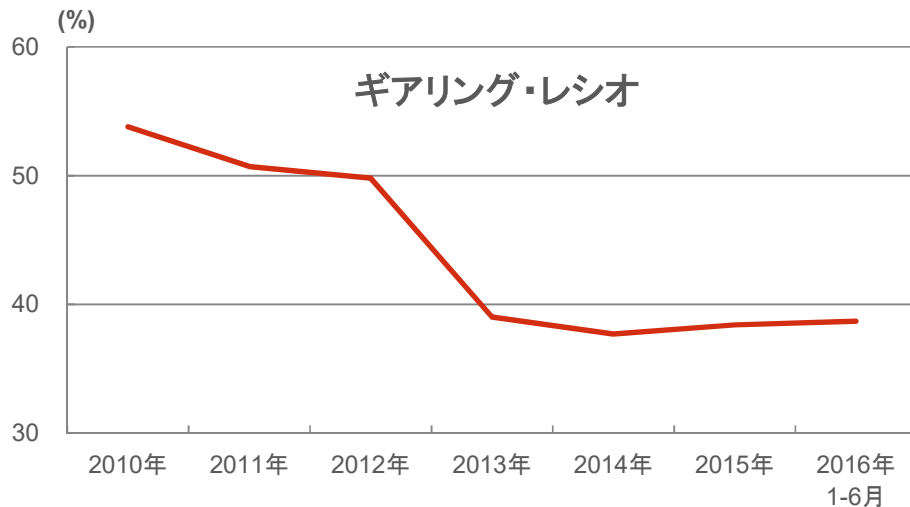
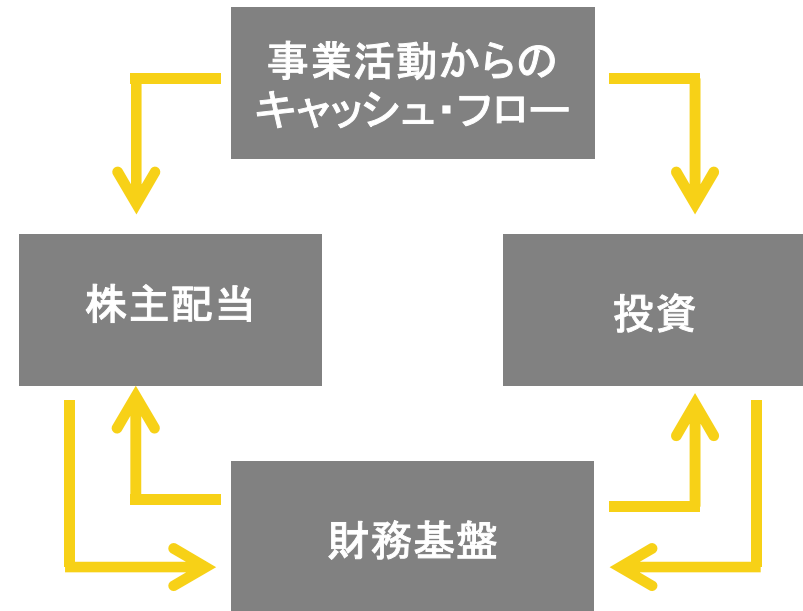
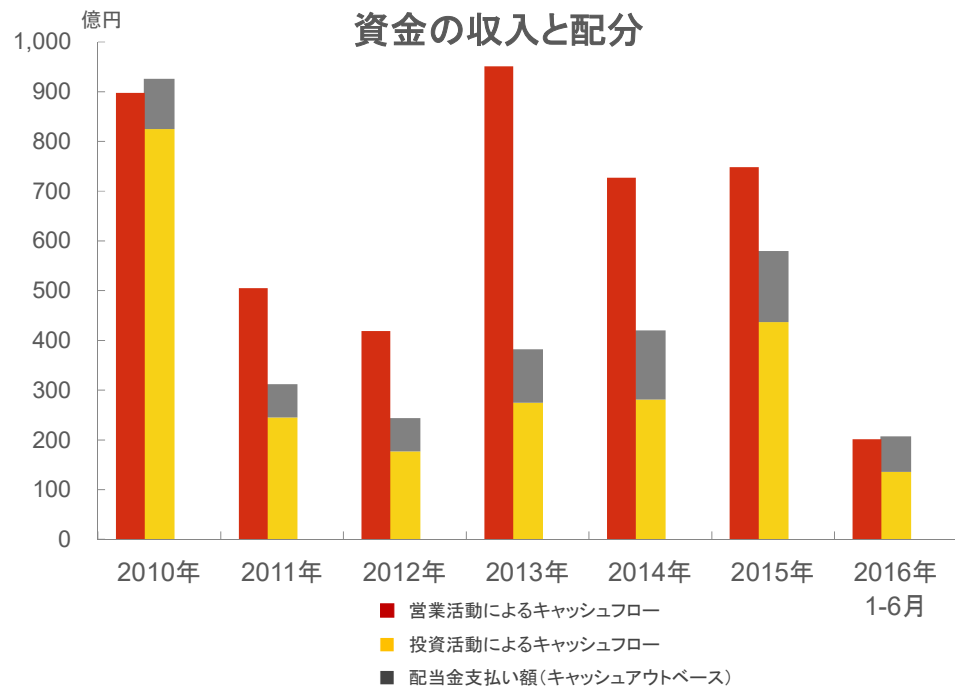
プロジェクト	2013	2014	2015	2016	2017
■ 構造的コスト競争力の改善	345億円改善、前倒しで計画達成				
■ LPガス事業の統合	☆ 検討合意	☆ 統合契約締結	☆ 統合会社設立	事業統合	
■ ミックスキシレン生産能力増強	☆ 調査・検討完了	☆ 投資決定	建設		稼働
■ 石油化学事業の海外展開検討	調査・検討				
■ 供給合理化に向けた東燃ゼネラル石油との事業提携	☆ 検討合意	評価および実行			
■ 四日市地域における競争力強化に向けたコスモ石油との事業提携			☆ 提携合意	準備および追加合理化領域の検討	提携開始



エネルギーソリューション事業

■ (太陽電池) 東北工場	☆ 投資決定	建設	稼働	商業生産
■ (電力) 扇島パワー 3号機		建設		稼働
■ (電力) 京浜バイオマス発電所	☆ 投資決定	建設		稼働

資金の配分



- バランス良く以下の領域へ資金配分を行う
 - ・ 将来への成長投資
 - ・ 強固な財務基盤と高い信用格付けの維持
 - ・ 安定的かつ魅力的な株主還元
- 2016年1-6月の営業キャッシュフローは、堅実な利益貢献を背景に、適正な水準で推移
- ギアリング・レシオは、前期末配当金支払い等の影響で、6月末時点では一時的に38.7%へ悪化。12月末に向けて改善する見通し

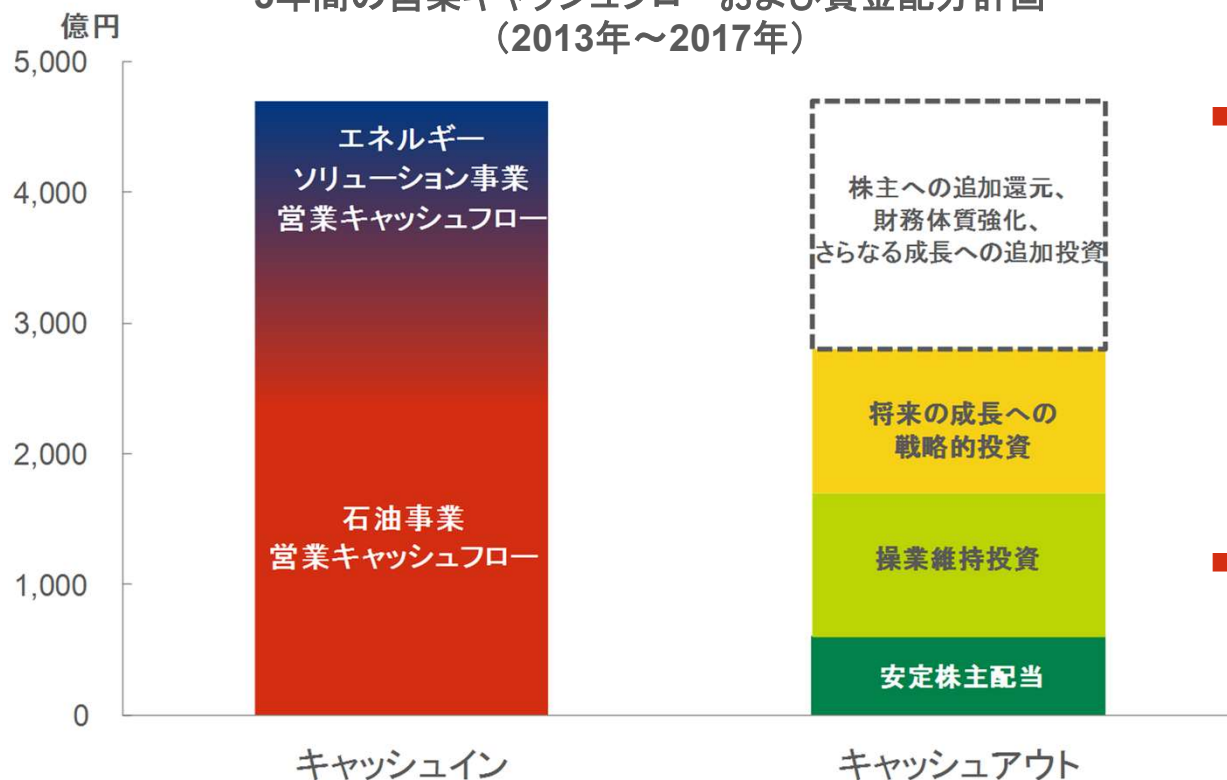
*ギアリング・レシオ: (有利子負債-現預金) ÷ (自己資本+有利子負債-現預金)

株主還元

単位：円

	2014年	2015年	2016年
1株当たり年間配当金	38	38	38(予想)
(うち1株当たり中間配当金)	19	19	19

中期経営アクションプランにおける
5年間の営業キャッシュフローおよび資金配分計画
(2013年～2017年)



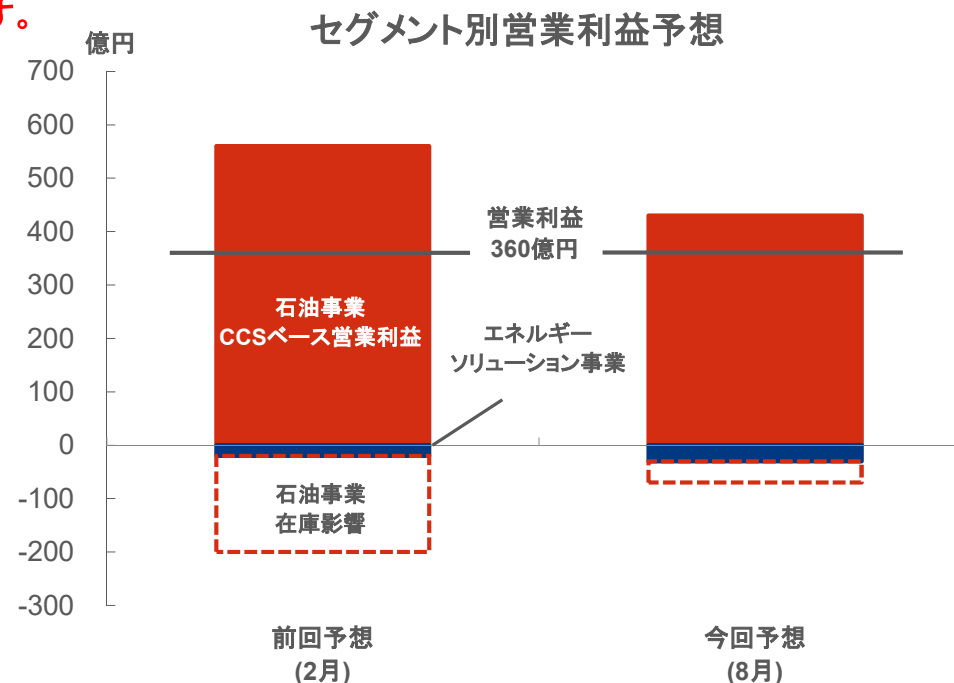
- 堅調な営業キャッシュフローの創出を見込み、安定的かつ魅力的な株主還元の方針に基づき、2016年度の一株あたり年間配当は前年同額の38円を予想。中間配当金についても、前年同額の19円を維持
- 引き続き、安定した配当および戦略投資が実行可能なキャッシュフローを確保できる見通し

2016年12月期 連結業績予想

※CCSベース利益およびセグメント別利益のみ変更となります。

(百万円)	2016年度		修正値
	前回予想(2月)	今回予想(8月)	
売上高	1,680,000	1,680,000	0
営業利益	36,000	36,000	0
※在庫影響	-18,000	-4,000	+ 14,000
※CCSベース営業利益	54,000	40,000	- 14,000
石油事業	56,000	43,000	-13,000
エネルギーソリューション事業	-2,000	-3,000	-1,000
その他および調整額*	-	-	-
経常利益	36,000	36,000	0
※CCSベース経常利益	54,000	40,000	- 14,000
親会社株主に帰属する当期純利益	16,000	16,000	0

*「その他および調整額」の2016年度予想は、「石油事業」に含まれています。



<業績予想の前提>

■ 石油事業:

- ✓ 年間の原油価格・為替の前提は、直近の見通しを反映。年間での在庫評価損は大幅に圧縮される見通し
- ✓ 原油価格や為替の動向を鑑み、国内燃料油マージンは上半期比で若干の回復を見込む。化成品マージンは足元の水準を想定
- ✓ 継続して製品およびサービスの差別化戦略および構造的コスト競争力強化活動を実施

■ エネルギーソリューション事業:

- ✓ 太陽電池事業は、採算性を鑑み、海外出荷比率を抑制。海外販売に関連する円高影響および最新の市況動向等を織り込み、収益見通しを下方修正。下半期におけるBOT販売収益、継続したコスト改善も見込む
- ✓ 電力事業は、継続した効率的な発電所稼働に加え、法人および家庭用販売拡大を中心とした販売ポートフォリオの改善を背景に、引き続き堅調な収益貢献を見込む

2016年12月期 業績予想の前提と感応度

■ 業績予想における原油価格および為替レートの前提(年間平均)

		前回(5月) 予想	今回(8月) 予想
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	30	38
為替レート	(円/USD)	120	107

■ 前提の変化に伴う在庫評価損益への影響額 (2016年7～12月の影響額)

	変動幅	在庫評価への 影響額(億円)
ドバイ原油価格	1USD/バレル	14
為替レート	1円/USD	5

* 原油価格の変動の仕方や在庫数量によって、結果が異なる可能性があります。

* 低価法の影響は考慮しておりません。

2016年第2四半期 トピックス



ミックスキシレン等を増産する不均化装置が稼働開始

堅調に需要が成長する石油化学製品の生産能力増強のため、四日市製油所で建設を進めてきた不均化装置が稼働を開始。同装置は、ガソリン基材から石油化学製品を生産するものであり、常に変化する市場環境の中で、利益最大化への生産対応力を高めます。既存設備の活用により投資額を最小限に抑え、アジア域内での需要拡大が見込まれているミックスキシレン等の芳香族の増産により、更なる収益の最大化を目指します。



ソーラーフロンティア・東北工場が商業生産へ移行

最新の量産技術を導入し、世界トップクラスの生産コストの確立を目指す東北工場は、2015年4月の稼働開始から立ち上げ期間を経て、6月1日に商業生産へ移行しました。同工場は、MWあたりの設備投資額を国富工場の約3分の2に抑え、より短い工程で高出力な製品を生産します。8月から工場が位置する宮城県内のお客様向けに販売を開始し、今後順次販売を拡大させていく予定です。



新しい電気料金プラン「昼はもちろん夜に差がでる電気」を受付開始

家庭向けに4月からサービスを開始した「ガソリンが10円安くなる電気(ドライバーズプラン)」に追加して、お車の利用が少ないお客様でもおトクにご利用いただける「昼はもちろん夜に差がでる電気(ホームプラン)」を7月から開始しました。日中のご利用はもちろんのこと、夜間(夜8時から翌朝7時まで)のご利用が多いお客様は一層おトクになる料金設定※で、新たな顧客を開拓します。詳しくは当社HPをご覧ください。

※2016年6月時点の東京電力従量電灯Bとの比較。電気の使用量によっては割高になる場合もあります



Data Book

決算ハイライト（4-6月）

■ 原油価格および為替レート

		2015年度 4-6月実績	2016年度 4-6月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	61.3	43.2
為替レート	(円/USD)	121.4	108.0

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2015年度 4-6月実績	2016年度 4-6月実績	増減	前年同期比
売上高	545,739	418,797	- 126,941	-23.3%
営業利益	32,839	23,812	- 9,027	-27.5%
営業外損益	-270	-1,770	- 1,499	-
経常利益	32,568	22,041	- 10,527	-32.3%
※在庫影響	11,121	14,620	+ 3,498	+31.5%
※CCSベース経常利益	21,447	7,421	- 14,025	-65.4%
特別損益	2,754	-594	- 3,348	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	23,351	12,175	- 11,175	-47.9%
※CCSベース親会社株主に帰属する四半期純利益	16,193	2,389	- 13,804	-85.2%

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報（4-6月）

■ 売上高

(百万円)	2015年実績 4-6月	2016年実績 4-6月	増減	前年同期比
石油事業	513,789	391,645	- 122,144	-23.8%
エネルギーソリューション事業	29,966	25,126	- 4,839	-16.2%
その他	1,982	2,025	+ 43	+2.2%
売上高 計	545,739	418,797	-126,942	-23.3%

■ 営業利益

(百万円)	2015年実績 4-6月	2016年実績 4-6月	増減	前年同期比
石油事業	33,561	26,428	- 7,133	-21.3%
※在庫影響	11,121	14,620	+ 3,498	+31.5%
※石油事業CCS営業利益	22,440	11,808	- 10,632	-47.4%
エネルギーソリューション事業	-1,066	-2,996	- 1,930	-
その他	343	383	+ 40	+11.7%
調整額	1	-2	- 3	-
営業利益 計	32,839	23,812	- 9,027	-27.5%
※CCS営業利益 計	21,718	9,191	- 12,526	-57.7%

・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売

・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給・小売り販売等

・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

原油処理実績と販売数量実績（4-6月）



■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2015年度 4-6月実績	2016年度 4-6月実績
原油処理実績	(千KL)	5,816	5,716
稼働率		90.3%	88.8%

(注記)

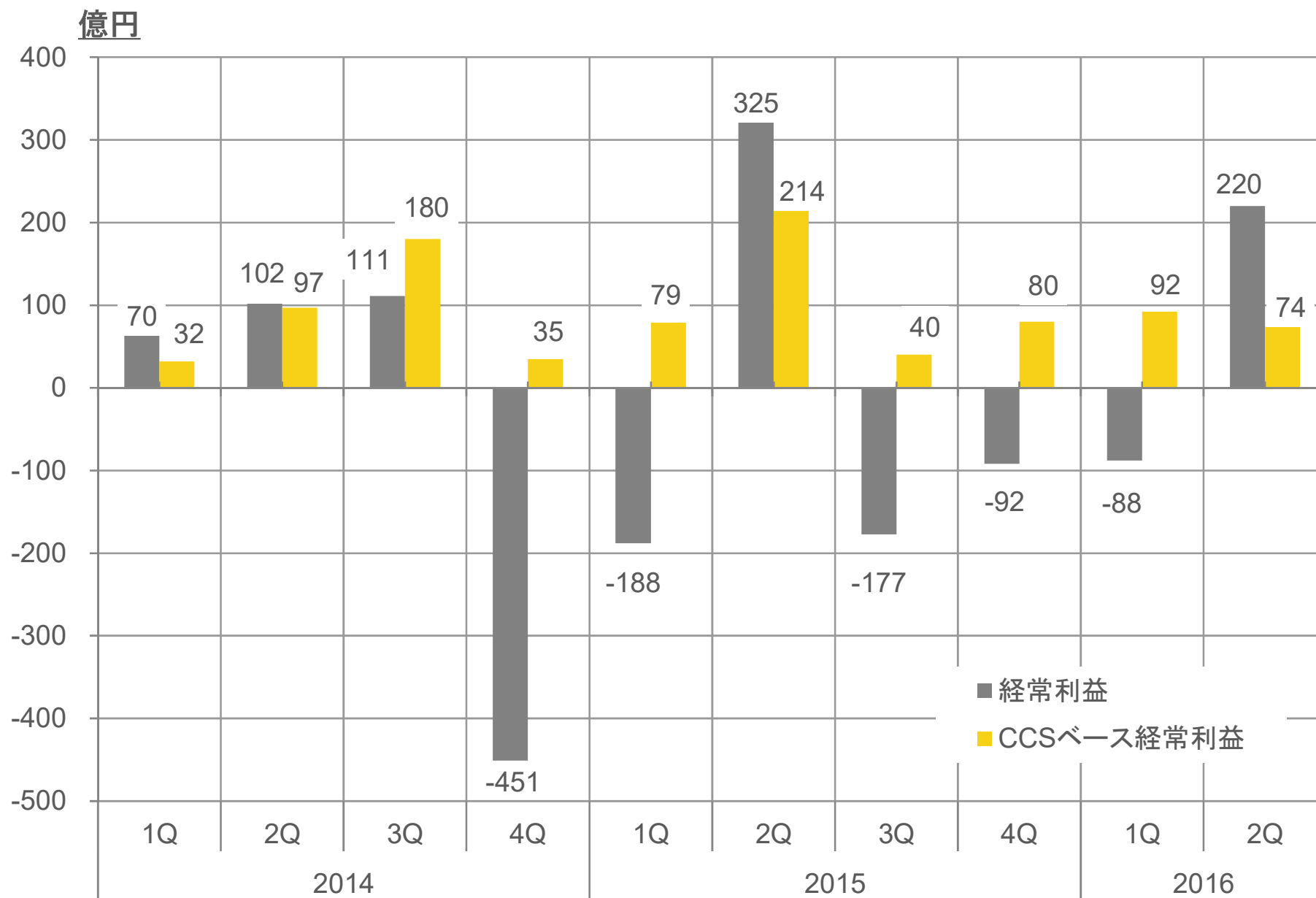
原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

■ 製品別販売数量

(千KL)	2015年度 4-6月実績	2016年度 4-6月実績	前年同期比
揮発油	2,103	2,118	+ 0.7%
ジェット燃料	427	485	+ 13.6%
灯油	344	327	- 4.9%
軽油	1,325	1,352	+ 2.0%
A重油	437	430	- 1.6%
C重油	252	307	+ 21.8%
化成品* (千MT)	263	256	- 2.5%
その他	555	595	+ 7.1%
国内販売合計	5,706	5,871	+ 2.9%
輸出	734	675	- 8.1%
総合計	6,441	6,545	+ 1.6%

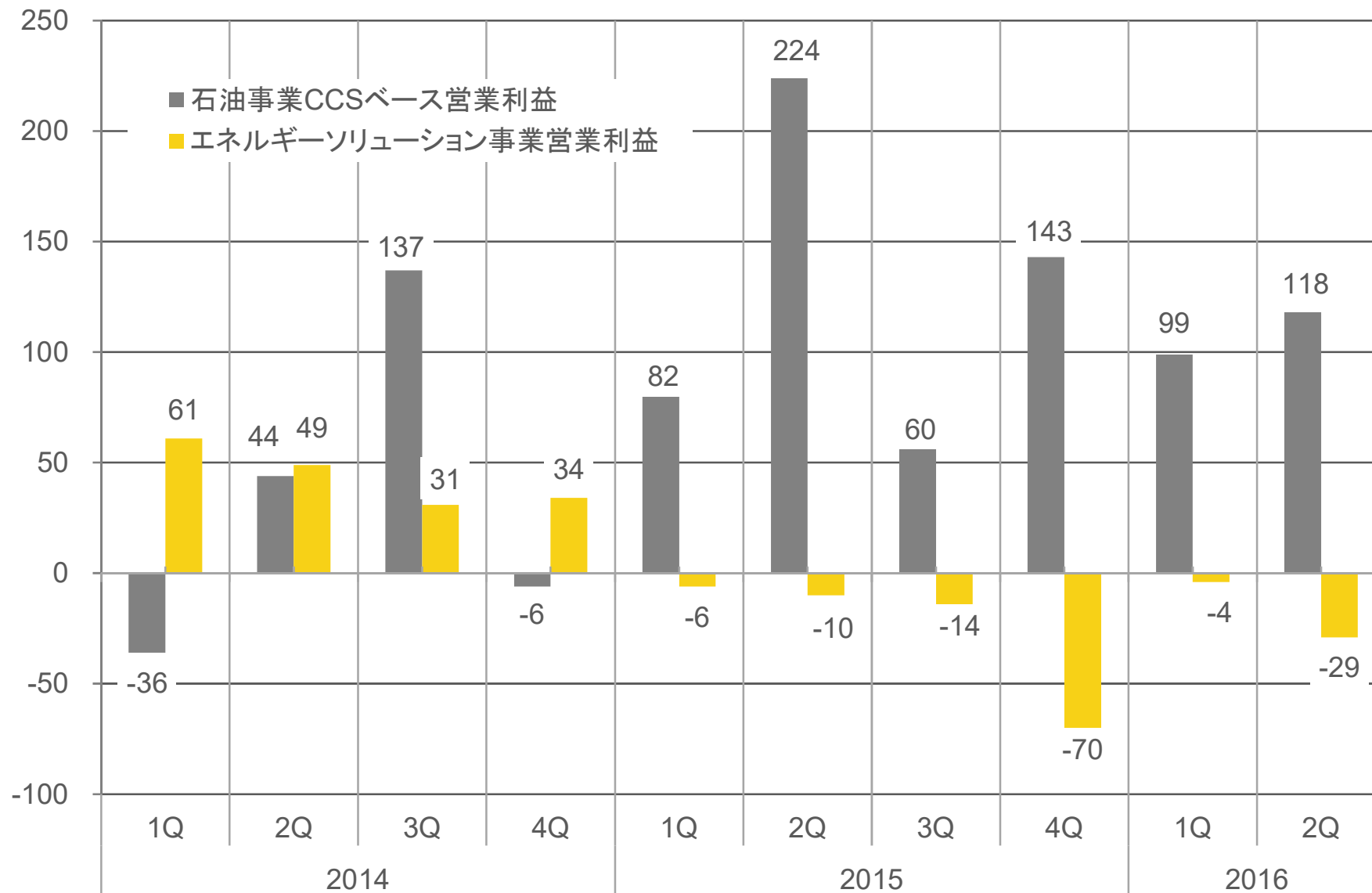
*化成品： ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

四半期別 経常利益の推移 (CCSベース)



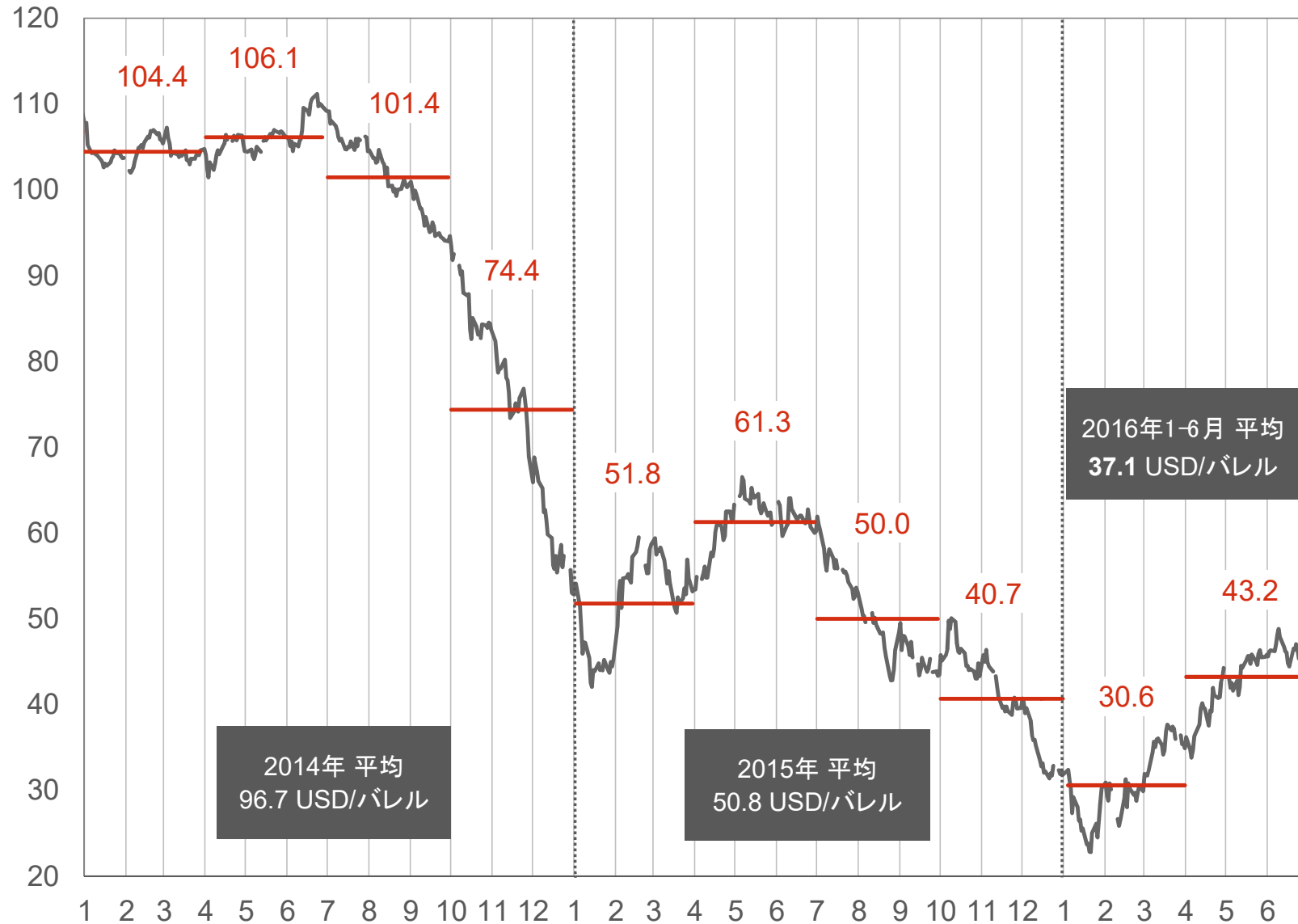
四半期別 セグメント別 営業利益の推移 (CCSベース)

億円



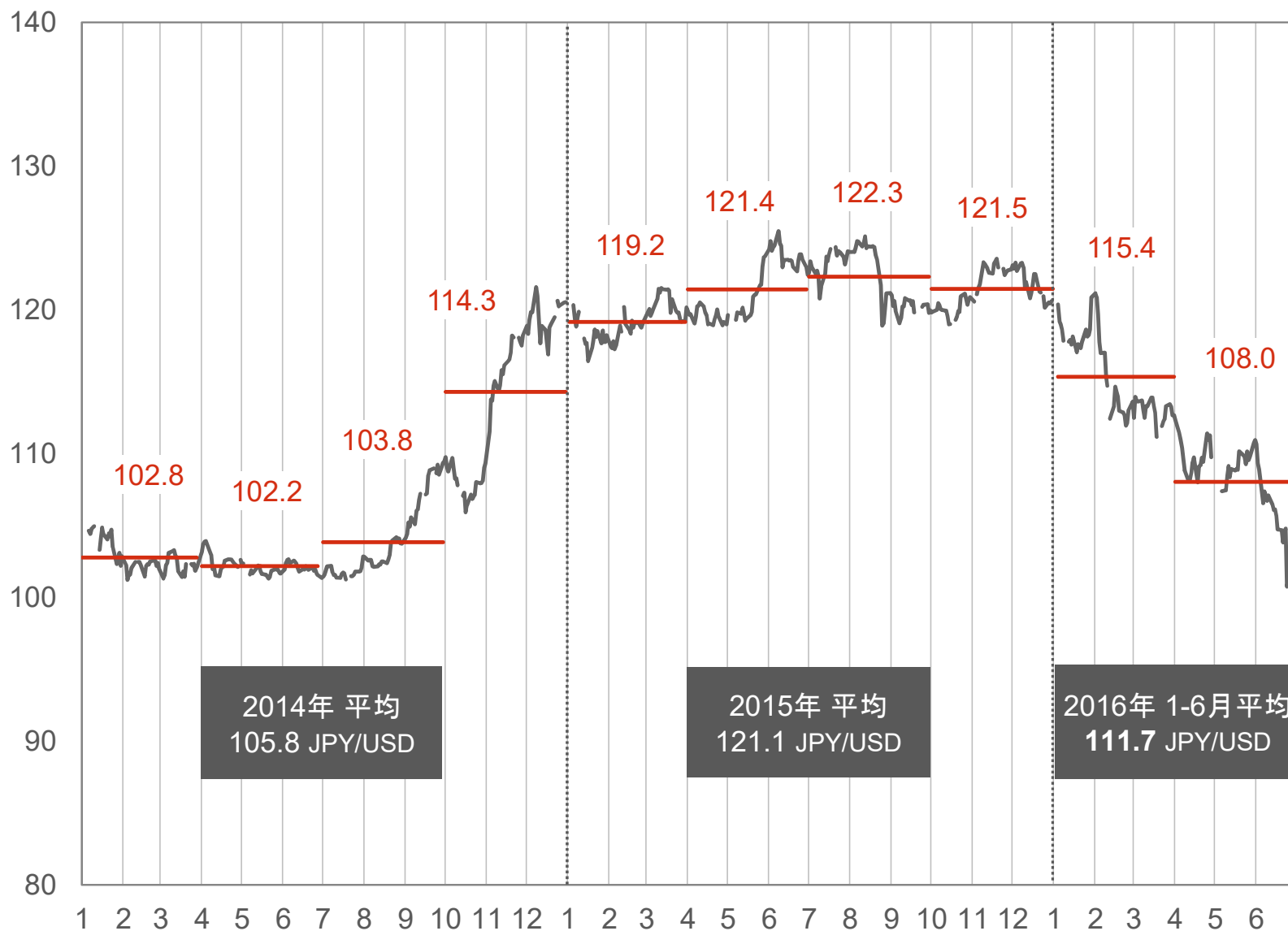
ドバイ原油価格の推移

(USD/バレル)

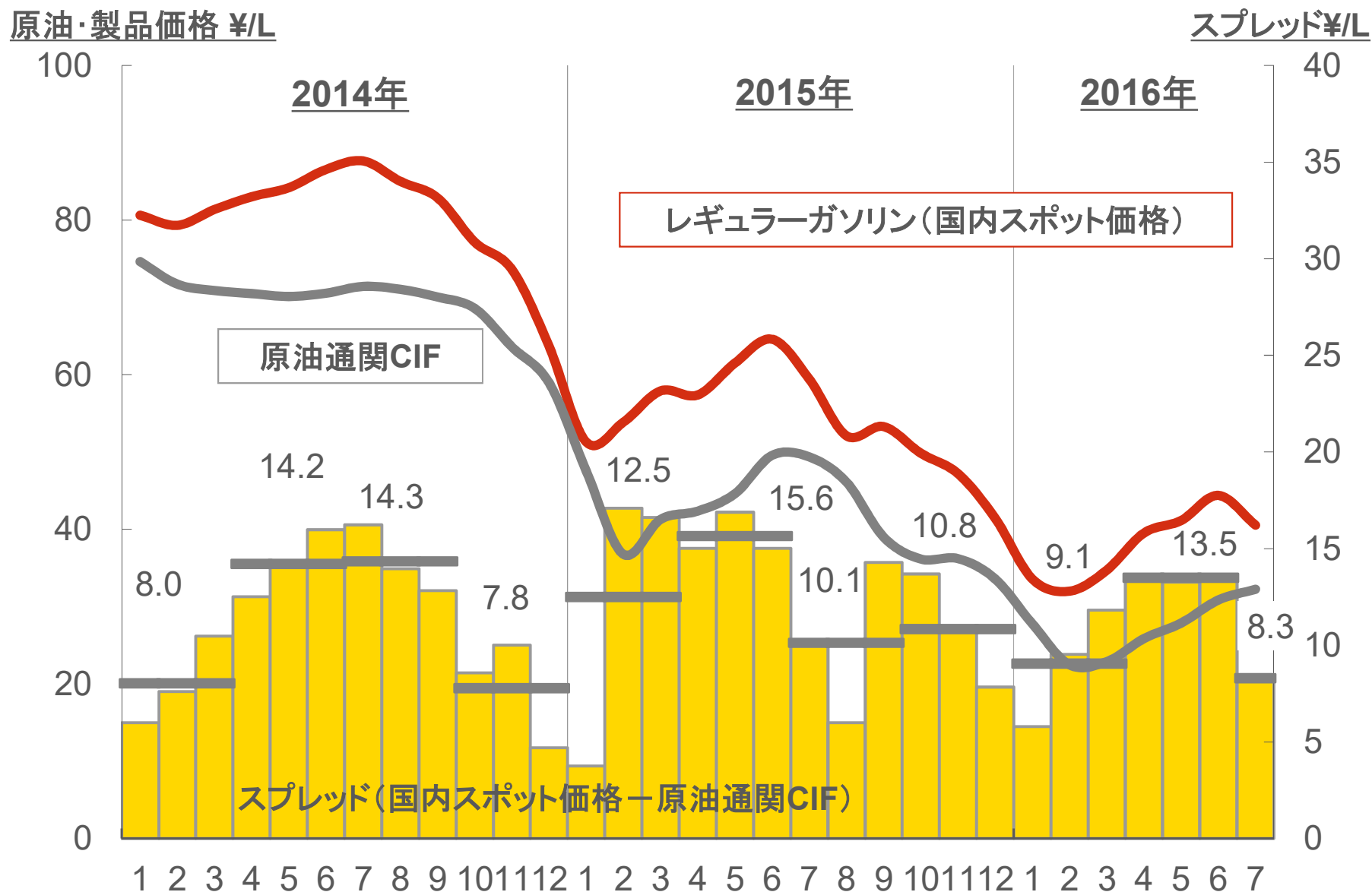


為替レートの推移(円/アメリカドル 仲値)

(円/USD)

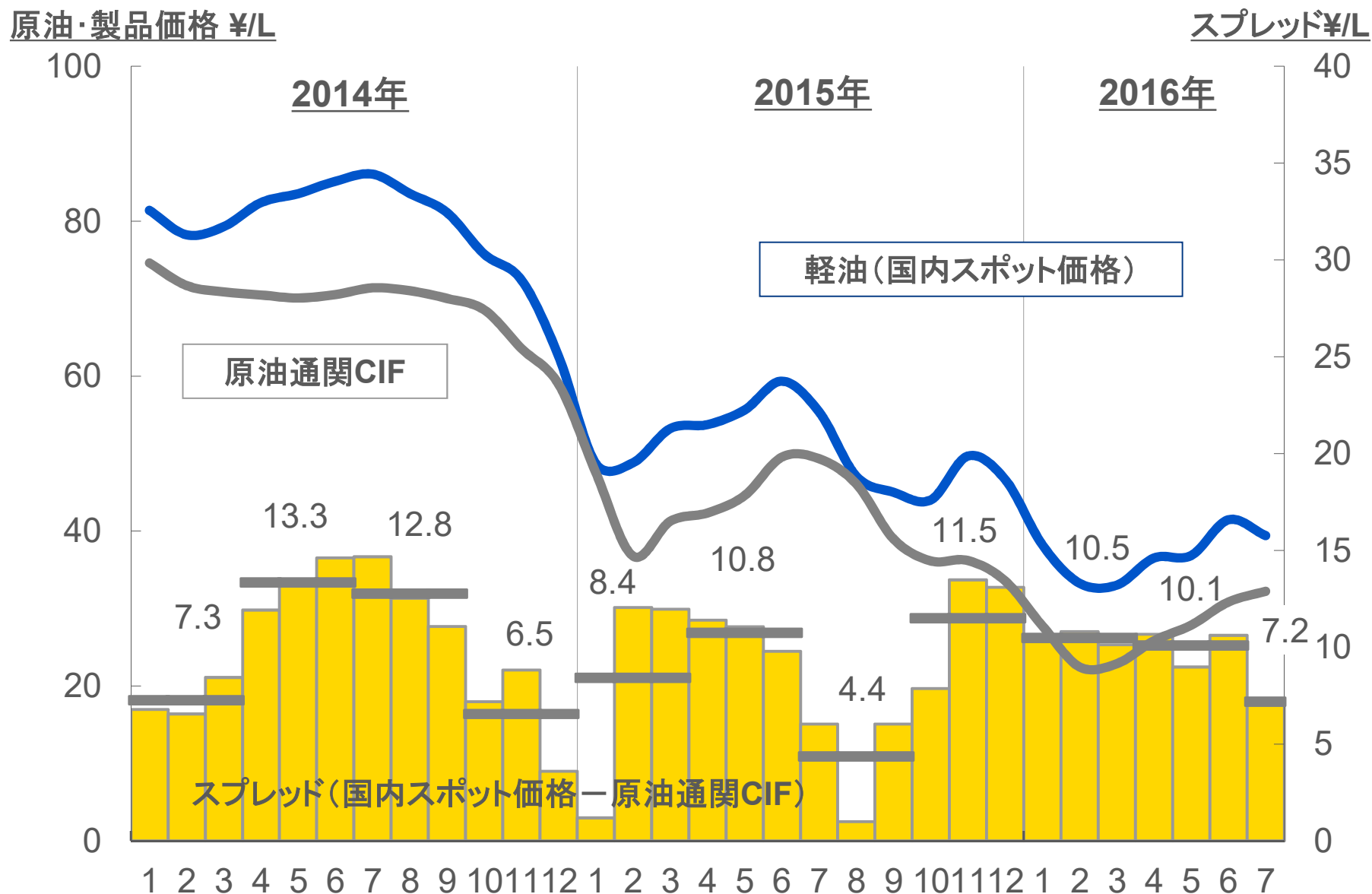


国内マーケットの状況①(ガソリン)



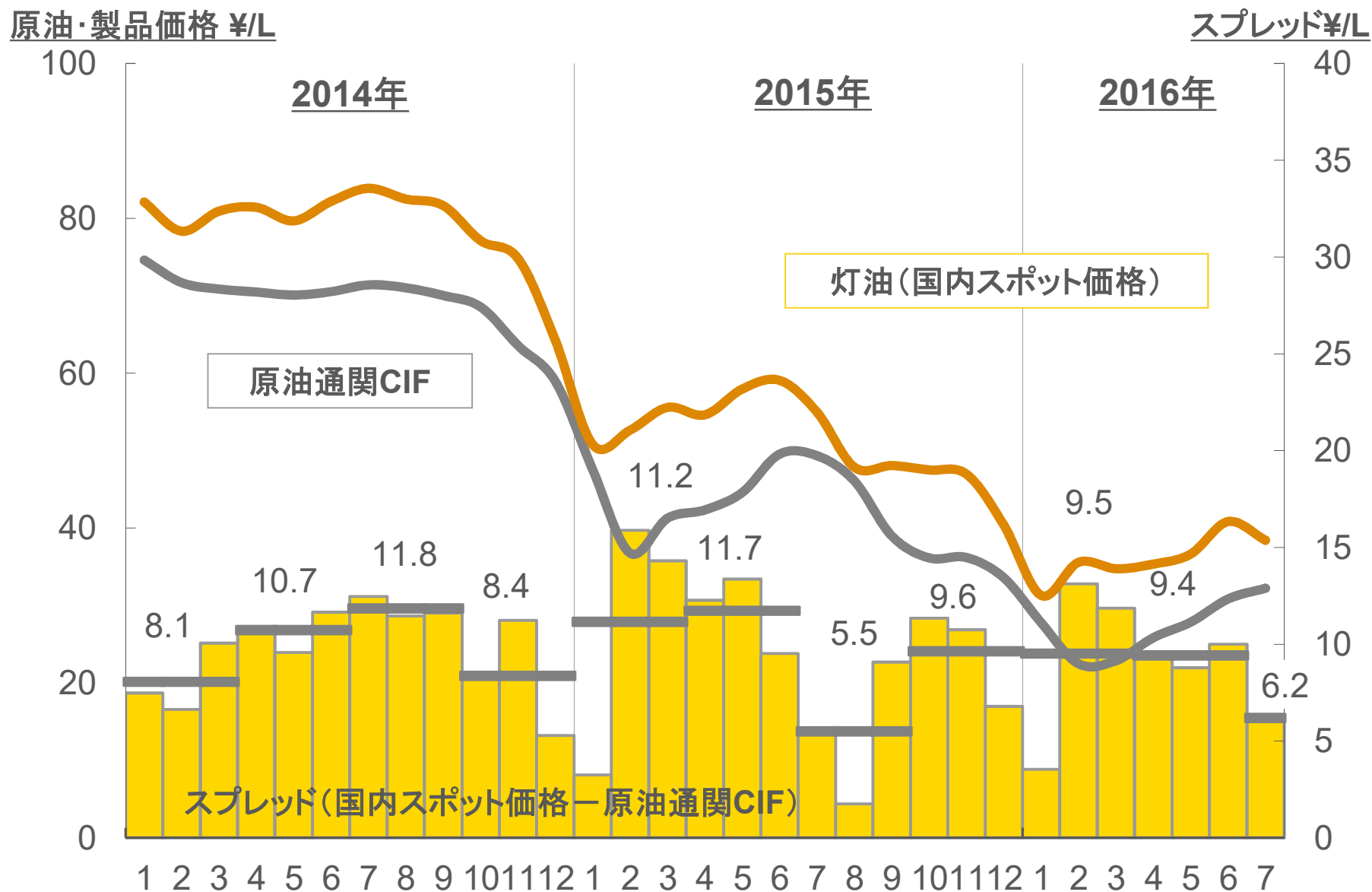
・原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より ※2016年7月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況②（軽油）



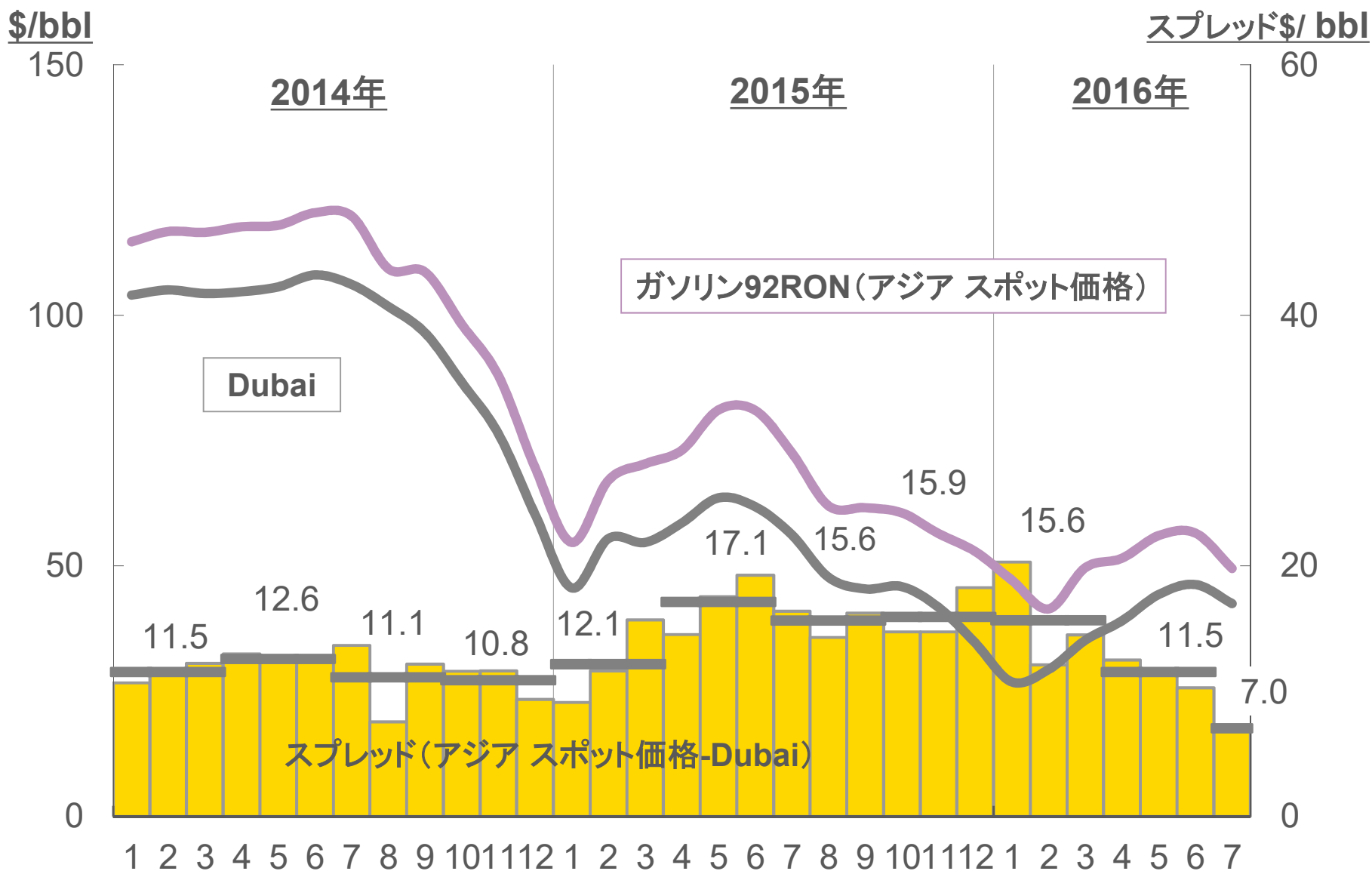
・原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より ※2016年7月の原油通関CIFは暫定値

国内マーケットの状況③（灯油）



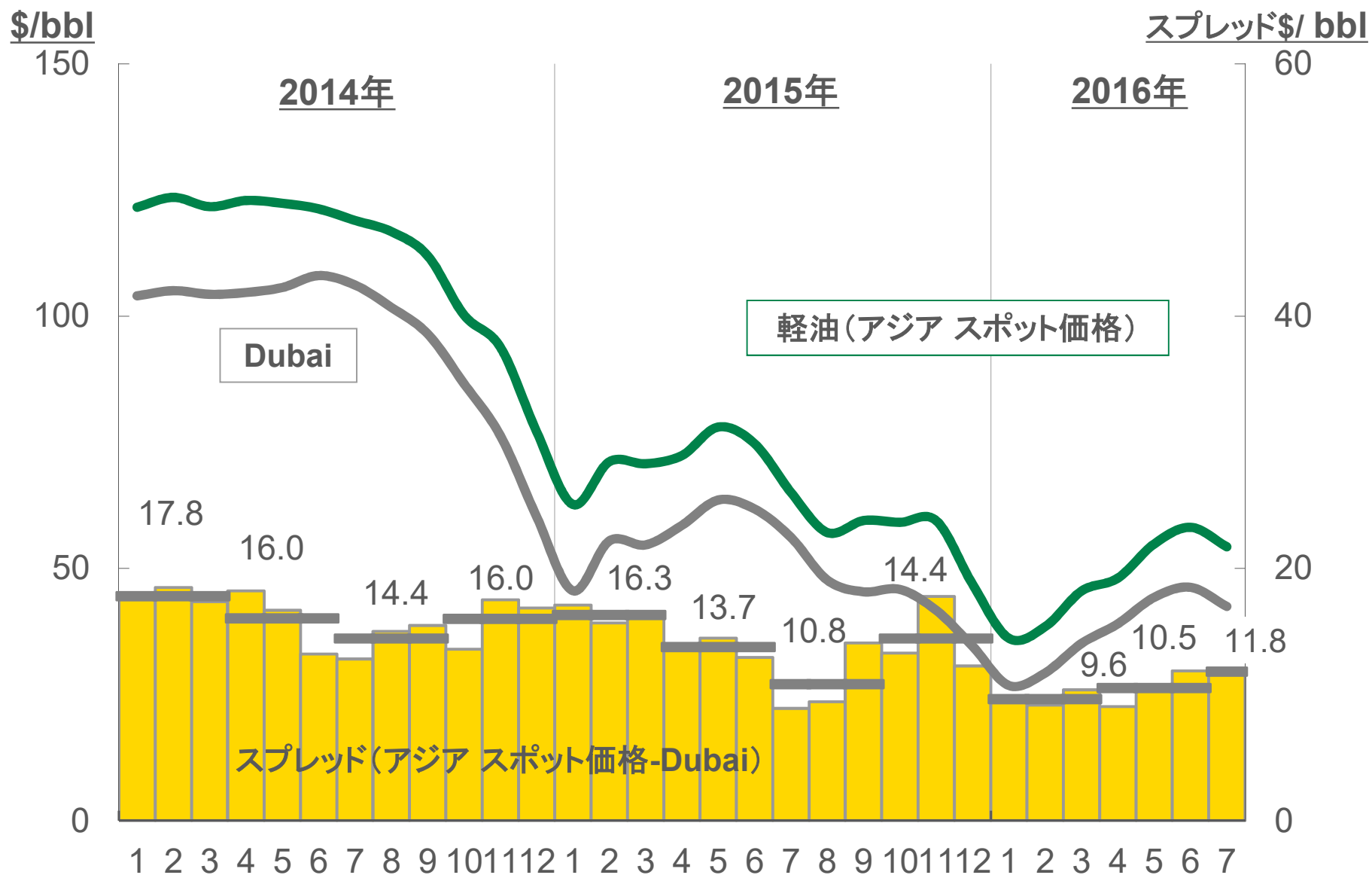
・原油通関CIF：財務省「貿易統計」より ※2016年7月の原油通関CIFは暫定値

海外マーケットの状況① (ガソリン92RON)



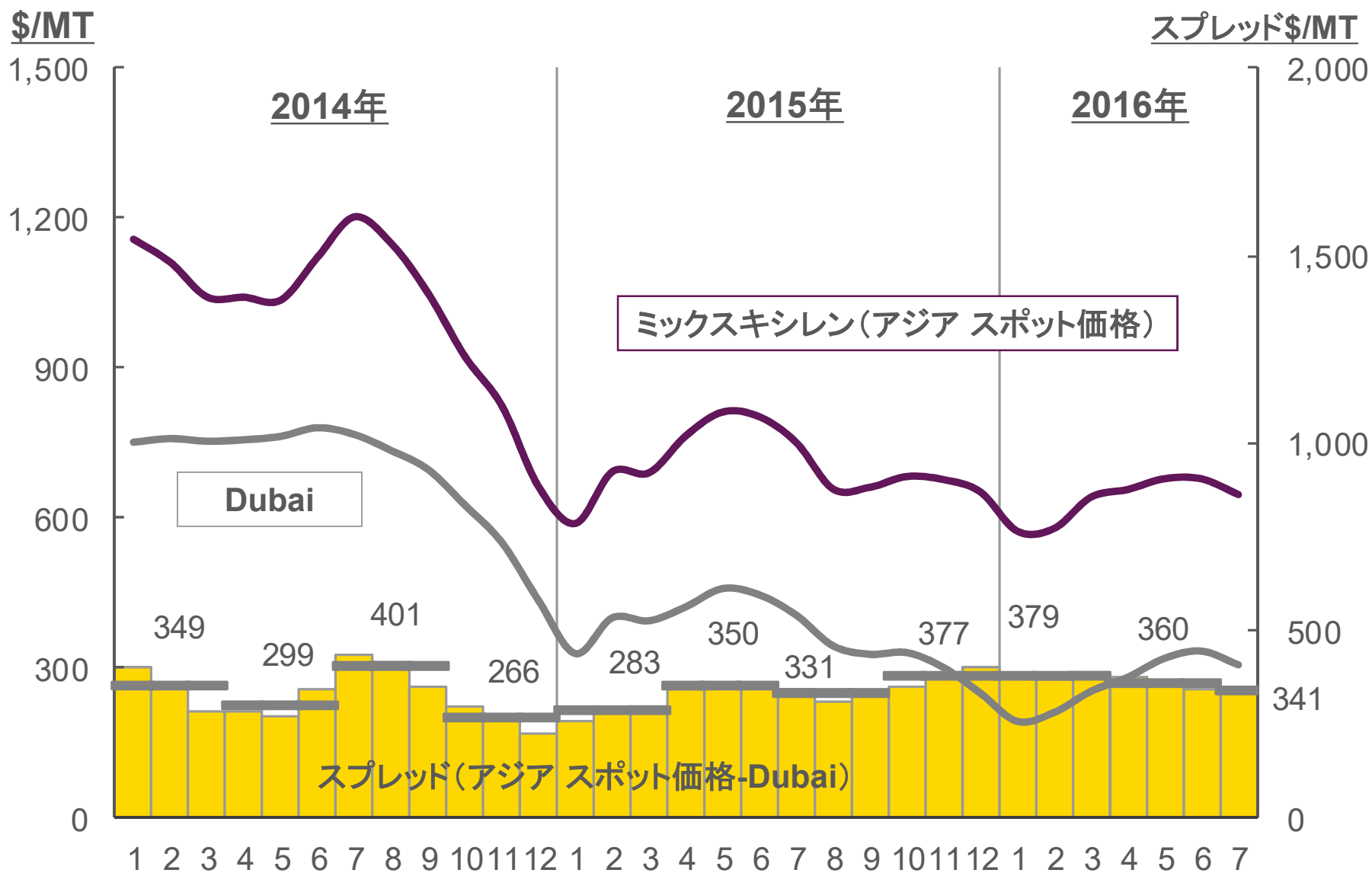
・Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

海外マーケットの状況②（軽油）



・Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

海外マーケットの状況③(ミックスキシレン)



・Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

